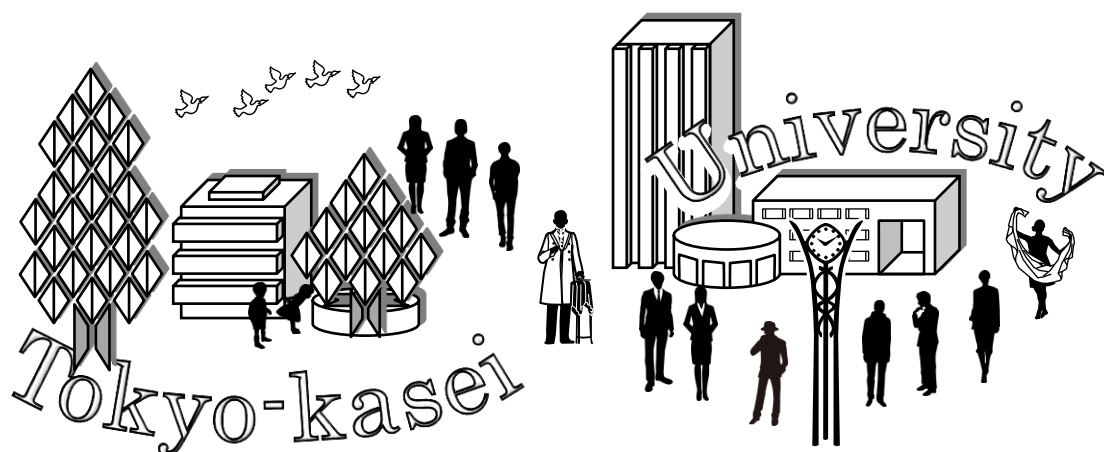


平成25年度 リサーチウィークス

期間：平成26年2月・3月



■ オープニングレクチャー (P. 1 参照)

開催日時：平成 26 年 2 月 20 日(木) 13:00～14:50

開催場所：120-3C 講義室 (120 周年記念館 3 階)

講演者：佐藤吉朗 栄養学科教授，倉みゆき 服飾美術学科准教授
上野容子 教育福祉学科教授

■ FDフォーラム (P. 2 参照)

開催日時：平成 26 年 2 月 26 日(水) 13:00～14:50

開催場所：120-3C 講義室 (120 周年記念館 3 階)

内容：一東京家政大学の歴史と伝統に新しいページをー

■ ポスターセッション (P. 3-7 参照)

開催日時：平成 26 年 2 月 12 日(水)～2 月 28 日(金) 9:00～17:00

(但し、土日は開催いたしません。)

開催場所：多目的ホール (120 周年記念館 1 階)

参加部署：ポスターセッション参加一覧

■ その他 研究発表等 (P. 8 参照)

開催日時：研究発表会・活動報告会等日程 参照

■ 教員研究成果発表会 (プログラム後日配付)

開催日時：平成 26 年 2 月 28 日(金) 10:00～16:30 (休憩 1 時間含む)

開催場所：120-2B 講義室、120-2C 講義室 (120 周年記念館 2 階)

リサーチウィークスの開催にあたって

家政学部長 川合貞子

平成 26 年 2 月 7 日

平成 25 年度リサーチウィークスが 2 月から 3 月にわたって開催されます。リサーチウィークスは本学の教育・研究の質の向上を目指し、教員と職員が協働して大学の活性化につなげる場として平成 21 年度より毎年設定されています。5 年目となる本年度、プログラムの 1 つであるポスターセッションには大学のみならず学園の各部署から多くのご参加をいただき、大変充実した発表の場となっています。また今回のオープニングレクチャーでは、大学教育と企業・事業体との協働・連携という視点から三人の先生方にご講演をいただきます。期間中は以上の他、FD フォーラムや教員研究成果発表会、各機関での研究発表会等が予定されております。活発な意見交換・交流の機会になりますよう多くの学園教職員の皆様のご参加をお待ちしております。

オープニングレクチャー	《日時》平成 26 年 2 月 20 日(木) 13:00~14:50 《場所》120-3C 講義室 (120 周年記念館 3 階)
--------------------	---

① 13:00~13:35 (質疑応答時間含む)

「研究は面白い」

佐藤吉朗 栄養学科教授

私の研究史は学生、卒業後は食品企業そして本学と産学に渡って 30 有余年になる。有機化学に基礎を置いて、植物ホルモン探索、医薬品のシーズ探索、食品の品質管理、食品のにおいの研究と変遷してきた。

これまで一貫した考え方は、どの様な研究でもその中には必ず自分にとって興味深いことがあるはず。従って、諦めずに目的に向けて集中し、それを極めることが重要である。こんな私の信条を少しでも若い学生に伝え、今後の人生の一助にしてもらえれば幸いと考える。

② 13:35~14:10 (質疑応答時間含む)

「恵まれた今の学生に望むこと」

倉みゆき 服飾美術学科准教授

昨今進学率は高まり、高校から次の学校の（一部専門学校は除き）大学に進学する、所謂全入時代という風潮になっている。また他方、女性の社会進出はめざましく、かなりの諸先輩が、食住も忘れ社会で活躍し実績を作られている。

但し、その反面現在の少子化を進めてしまったようだ。そうなるとその子供は宝物で、愛情も物も贅沢に与えられ過ぎ食欲に学ぶ姿をあまり見受けられない。折角大学に入ったのだから、指導者になれるよう多くのことを学び、自分の将来設計をして貰いたい。また、仕事は決して楽しいものではないが、やりがいから達成感、いつの間にか楽しみに変わることを、現場の事情を含め、伝えるために私はいる。

③ 14:10~14:45 (質疑応答時間含む)

「福祉事業体と大学との連携」

上野容子 教育福祉学科教授

近年、福祉サービス事業体は、高齢・少子化、病者・障害者の権利保障、メンタルヘルス向上等の喫急な課題に即応していくことが求められ、一般市場と同様、事業の発展・拡大が期待されている。それを実現していくために最も重要な要素の一つは、人材の育成である。事業体は、教育機関（大学）にどのような人材育成を求めているのか？事業体は、学生や教員にどのようなフィールドを提供できるのか？ 私が関わっている（福）豊芯会（東京都豊島区：障害者福祉事業体）の活動をとおして発表させていただきたい。

平成 25 年度 東京家政大学 FD フォーラム

— 東京家政大学の歴史と伝統に新しいページを —

平成 25 年度の東京家政大学 FD フォーラムはⅠ部・Ⅱ部となっています。Ⅰ部では東京家政大学の狭山キャンパスに平成 26 年 4 月 1 日より看護学部・看護学科、子ども学部・子ども支援学科を開設することが確定し、本学は 4 学部 11 学科・短期大学部 2 科を有する大学として新しい出発をしますが、今回は新設学部及びその他の諸施設の概要を紹介いただき、狭山キャンパスへの理解を深め板橋キャンパスと狭山キャンパスが一体となって新年度に臨む機会としたいと考えています。Ⅱ部では学修および授業の改善に向けての組織的・継続的な取り組みを担う部署として「学修・教育開発センター」（仮称）の創設の提案をします。

《日時》平成 26 年 2 月 26 日(水) 13:00～14:50

《場所》120-3C 講義室（120 周年記念館 3 階）

司会：川合貞子 家政学部長

13:00～13:10 ご挨拶 木元幸一 学長

13:10～14:10 Ⅰ部：新 狭山キャンパスの概要

(1) 看護学部・看護学科

今留 忍看護学部長(予定者)

(2) 子ども学部・子ども支援学科

岩田 力子ども学部長(予定者)

(3) ・セミナーハウス「かせいの森」 ・学寮「かせいの森ドミトリ」

・保育所「かせい森のおうち」 ・クリニック「かせい森のクリニック」

岩井 絹江 常務理事

14:10～14:50 Ⅱ部：「学修・教育開発センター（仮称）の創設について」

井上俊哉 人文学部長・FD 委員長

教育の質の向上を図り、授業の内容及び方法の改善に関し組織的な研修及び研究の開発を進めること」を目的として FD 委員会が発足してから、この 3 月で満 5 年になります。FD 委員会はこれまで、授業アンケート、授業公開、教職員研究会などを通じて、目的の実現に努めてまいりました。しかし、これまでの活動内容だけでは、個々の授業あるいは全学の教育活動改善への組織的な取組として十分だったとはいえません。そこで、①学生の成長こそが教育活動の究極的な目標であることを再確認し、学修面をサポートしてきた e-kasei 推進室や図書館など他機関・他部門との協働を深化させる、②学生の学修状況を把握し、その情報を教育活動の改善に反映させる、③情報提供や講習会の企画などにより、教育改善に向けた教員支援を強化することなどを重視した新しい組織として、学修・教育開発センターの創設を提案いたします。

リサーチウィークス ポスターセッション参加一覧

【教員部門】

所 属		担 当 者	参 加 内 容
1	生活科学研究所	高野綾子	生活科学研究所で行っている総合研究プロジェクト、産学官連携(白藤プロジェクト、小松市・加賀市等の連携事業、オープンラボ(共同研究)、レクチャーフォーラム、生活をテーマとする研究、作品コンクール等の成果発表。
2	児童学科	花輪充	2013年2月22日、23日に行われた保育科2年生「保育総合表現」授業発表会「ミュージカル”ドロシーの大冒険”」について学生の取り組みを報告する。
3	栄養学科	市丸雄平	【管士国家試験対応型 ICT 教育法の開発】 多様化する社会のなかで、学生が生涯にわたる学修習慣を定着させる教育システムの一応用型を構築した。PHP 言語を用い、学生・教員が共同で問題を考案・作成・校正・創出する学修形式とした。
4	栄養学科	武田純枝 伊藤寿江	【女子大生の体脂肪率と食事の関連】 若年女子ではダイエット志向がみられるが、隠れ肥満も比較的多い。栄養学科学生を対象に、体脂肪率と食事、血液データ、運動習慣との関連について検討したので報告する。
5	栄養学科・栄養科	武田純枝 葛城千紗	【超高齢期の口腔機能と食事(栄養)摂取状況の実態把握調査】 超高齢期における残存歯数は性別で異なり、残存歯数により食事摂取状況の違いが、栄養摂取状況に影響していることが推察された。
6	栄養学科	長尾慶子 久松裕子	中国料理に着目し、食材の組み合わせ等による各料理及び献立単位での抗酸化能の比較検討を行った。 日本家政学会 第65回大会ポスター発表(2題) 日本調理科学会 平成25年度大会ポスター発表(2題) 第60回日本栄養改善学会学術総会ポスター発表
7	栄養学科	峯木真知子 成田亮子	日本官能評価学会 2013 年度大会で発表した「乾燥卵白添加による中華麺のテクスチャーへの影響」をポスター展示します。
8	栄養学科	森田幸雄	【平成 25 年度業績】 H25 年度に公表した論文・報告・発表および学部学生の卒業論文などを掲示します。
9	栄養学科 (院・健康栄養学専攻)	大西淳之	【発芽玄米による授乳婦の疲労改善と関連する遺伝子マーカーの解析】 授乳婦を対象に 4 週間の発芽玄米食介入を実施した結果、疲労感が改善された。この改善効果と関連する白血球でのマーカー遺伝子を探索した。
10	栄養学科	関口紀子 兒玉恵里子	【東日本大震災後の高校生の食生活と健康意識について】 第 60 回日本栄養改善学会において示説発表の内容
11	栄養学科	和田涼子	【Survey of the intake of milk and dairy products and dietary habits of female university students】 [IDF World Dairy Summit2013]にてポスター発表
12	栄養学科	和田涼子	【都市部高齢者福祉施設における行事食の提供調査】 「第 60 回日本栄養改善学会学術総会」にてポスター発表
13	栄養学科	宇和川小百合 色川木綿子	【女子大生の食生活状況について】 日本調理科学会 平成 25 年度大会で発表したポスターの掲示
14	栄養学科	疋田あかり	健康づくりのための身体活動基準 2013 に基づいた身体活動時の心拍および加速度の特性について検討を行った。その結果、%HRmax が 0.41～0.46 以上、胸部マグニチュードが 1.44～1.76G であれば、3METs 以上の運動を行っているかと推察された。
15	栄養科	青木幸子	【「履修カルテ」の作成と学びの関係—学生調査にみる家庭科履修者の特徴—】 日本家庭科教育学会第 56 回大会における口頭発表内容のポスター展示
16	栄養科	塩入輝恵	第 60 回日本栄養改善学会発表(示説) 学童・思春期における食に関する指導のための研究 —女子大生の記憶にある事象からの検討—

所 属		担 当 者	参 加 内 容
17	栄養科	重村泰毅	【摂取濃度の違いによるヒト血中移行コラーゲンペプチド濃度の変化】 コラーゲンペプチド摂取濃度と、ヒト血中に吸収されるペプチド濃度との関係を調べた。摂取後、血中でヒドロキシプロリンを含むペプチドが濃度依存的に増加した。(2013 年食品科学工学会関東支部会発表ポスター)
18	栄養科	葛城千紗	【在宅高齢者の栄養評価に関する研究】 簡易栄養状態評価表(MNA)を用いて、在宅高齢者の栄養状態の実態把握および栄養評価を実施した。その結果、在宅高齢者の約二割が低栄養のおそれがあることが推察された。
19	服飾美術学科	飯塚堯介	服飾美術学科のアパレル生産実習Ⅰの授業とそれに関連する授業による「アパレル製品の製作と販売」は今年第4回を迎えた。完成された技術・知識の中で製作しているわけではなく、勉強しながら作りあげたものであるが、毎年好評を得ている。
20	服飾美術学科	倉みゆき	【クリッカーとネット上の共有ホルダーを活用した授業改善】 副題 クリッカーでドリル効果
21	服飾美術学科	知野恵子	【服飾美術学科卒業研究ファッションショー】 卒業研究で製作した作品をファッションショー形式で、発表し、4年間の集大成とする。
22	環境教育学科	片田真一 (他8名)	環境教育学科 研究室活動紹介
23	環境教育学科	藤森文啓	【マイタケに発見された新規 RNA ウイルスの性状と生物学的特性に関する研究】 マイタケ異常株に第2の RNA ウイルスを見出した。本ウイルスの同定中である。
24	環境教育学科	小松あき子	【マイタケに感染する新規 partitivirus の性状と生物学的特性に関する研究】 マイタケ中に新規 partitivirus を見出した。子実体形成に本ウイルスがどのような影響を与えているかを、ウイルスフリー株を、用いて解析している。
25	造形表現学科	押元信幸 田中千賀子	【アートキャンプ ―多様で新しいアートの創造力が芽生える】 2013 年 8 月 9 日～10 日に板橋キャンパスにて「板橋アートキャンプ 2013」を開催した。造形表現学科 3 年生を中心に学年、学科をこえて学生同士が協力し、企画運営をすすめたプロジェクト学習である。この準備から実施までの活動内容を報告する。
26	造形表現学科	岡本恵	【繊維造形によるサーフェイスデザイン】 ―衣服という形態―
27	造形表現学科	大木敦子	【空間演出におけるテキスタイル表現の可能性】
28	英語コミュニケーション学科	乾隆	【ジョン万次郎と『英米対話小径』】 日本人で初めてアメリカで公教育を受けたジョン万次郎の生涯とその著書『英米対話小径』の音声的な特徴を紹介します。
29	英語コミュニケーション学科	甲斐基文	フランス語におけるモダリティと présent《pro futuro》
30	英語コミュニケーション学科	小泉仁	【韓国の英語教育】 日本でも小学校英語の教科化をはじめ多様な英語教育改革案が打ち出されているが、10 年前から強力に改革を進めている韓国の英語教育の実情を調査した。教育課程、教科書、教員養成の面からアプローチする。
31	英語コミュニケーション学科	横田由美	【Viking Heritage in the English Language ―英語に宿るヴァイキングの遺産】 ヴァイキング時代(800年～1050年頃)にイギリスに定住した北欧人。その歴史的事実の確固たる証拠を現代英語の求めて。
32	英語コミュニケーション学科	エドワーズ トム	【Media Literacy and Second Language Learning】 This paper explains one approach to helping students gain media literacy skills.
33	英語コミュニケーション学科	並木有希	【白鳥省吾と自然:ホイットマンの影響を中心に】 宮城県栗原市築館出身の詩人・米文学者、白鳥省吾(1980-1973)の散文詩に表現された自然観における米国詩人 Walt Whitman の影響を明らかにし、日本近代の地方コミュニティの自己規定における、米文学・文化の影響を明らかにする。 大学院総合プロジェクト A「災害と生活学」成果報告

所 属		担 当 者	参 加 内 容
34	英語コミュニケーション学科	市川ゆりえ	【英語技能特別実践ルーム】における取り組みについて】 「英語技能特別実践ルーム」(通称 REAL,10 号館 3 階)の利用状況に関する学生へのアンケート調査結果と、その結果をふまえて今年度実施した来室者を増やすための取り組みに関して報告する。
35	教育福祉学科 (生活科学研究所)	田中恵美子	【障害の経験との遭遇ー過去、現在、そして未来へ】 障害者に教育、スポーツ、子育て、バリアフリー、文化のテーマでインタビューを行い、人生とテーマとの関わりについて、時代を追ってまとめた。

【 大 学 院 】

所 属		担 当 者	参 加 内 容
1	大学院 人間生活学総合研究科	佐藤吉朗 青木里紗	食品の移り香の問題について、検討した。未開封の紙パック飲料としてオレンジジュース、お茶を用いて検討したところ、オレンジジュースの香り成分のリモネンが経時的にお茶に移ることが明らかになった。
2	大学院 人間生活学総合研究科	虞申佳	【中国海鮮粥の抗酸化能を高める調製方法の検討】 中国で摂食頻度の高い白粥を対照にし、乾物の魚介類を加え、さらに調味料の種類を変えて調製した海鮮粥数種について、抗酸化能を高める調製方法を検討した。
3	大学院 人間生活学総合研究科	渡辺裕子	【ハトムギ粉の小麦粉代替食品の適応性の検討】 近年では、健康思考の高まりから雑穀の摂取が注目されています。そこで、雑穀の一種であるハトムギに注目し、調理における小麦粉との比較を行い、検討した。
4	大学院 人間生活学総合研究科	峯木眞知子 城田直子	日本官能評価学会で発表した「入院患者における食事量の増加を目指すレシピの提供」をポスター展示いたします。
5	大学院 人間生活学総合研究科	武田純枝 藤澤和子	【サルコペニアに対するBCAA、ビタミンD強化濃厚流動食品の効果】 サルコペニア改善のために運動療法と栄養療法が重要である。BCAAとビタミンDを強化した流動食品による栄養介入の効果について報告する。
6	大学院 人間生活学総合研究科	峯木眞知子 宮田美里	日本官能評価学会で発表した①「赤酒および本みりんの保存温度の違いによる品質の変化」 ②「焼き魚のテクスチャーにおける調味料(赤酒・本みりん)の影響」の2部をポスター展示いたします。
7	大学院 人間生活学総合研究科	飯塚堯介 渡辺綾音	【科学的処理が綿布の保温性に及ぼす影響】
8	大学院 人間生活学総合研究科	高橋麻理亜	【日本と韓国における義務教育レベルでの外国語としての英語教育の比較研究】 日本と韓国、同じアジアにあり隣接する国であるが、英語教育に関して韓国人の意識や情熱は高まっている。
9	大学院 人間生活学総合研究科	西村純一 柿沼里奈 渡辺里絵	【青年期における時間的展望と信頼感に関する研究】 時間的展望の構築に関わるであろう信頼感の影響を検討するため、中学生、高校生、大学生に対して調査を実施した。その結果を発表する。
10	特別研究員	赤石記子 長尾慶子	【クッキーの低アレルギー化に及ぼす焼成条件の影響】 焼成条件を変えたクッキーの小麦抗原量と小麦アレルギー疾患血清と抗原抗体反応から低アレルギー化を導く調理条件について検討した。日本調理科学会(於:奈良大女子大)にて発表。
11	大学院 人間生活学総合研究所	西村純一	【大学院生の学外研究活動】 大学院では、院生の学会発表を奨励し学会発表等の経費助成を実施している。論文等の作成に向け、研究指導教員の指導のもと、実施された大学院生の成果発表や学外研究活動を報告する。

【 事 務 部 門 】

部 署		参 加 内 容
1	総務部 総務課	学園の環境整備及び管理体制の見直し等 今後の対策・取り組みについて
2	財務部 管財課	平成25年度に実施した省エネの取り組みとポスターの展示。
3	教育・学生支援センター (学生支援課)	平成 25 年度 学生生活支援行事報告
4	教育・学生支援センター (教育・研究支援課)	【「彩の国大学コンソーシアム公開講座」の活動報告(H22～H25)】 平成22～25年に開催された、彩の国コンソーシアム公開講座について報告します。
5	教育・学生支援センター (教育・研究支援課)	【東京家政大学における免許状更新講習の現状と課題】 5年間の受講者評価を中心に
6	教育・学生支援センター (e-kasei 推進室)	【平成 25 年度 e-kasei による取り組み】 ～教育・学修支援、システム利用環境の整備～
7	進路支援センター	「教員対象講習会」21 回を迎えました。 「出身県別の集い」
8	進路支援センター	【女性が自分の力で夢をかなえるための進路支援センターの取組】 平成 25 年度のキャリア・就職支援プログラム及び文部科学省補助金事業の取組概要とその成果、そして平成 26 年度以降の環境の変化と課題をご紹介します。
9	図書館	【平成 25 年度 図書館活動の新しい動き】 1.学生との協働による図書館活性化をめざして:Library Mates 2.進路支援センター共催事業「企業情報の探し方」説明会
10	東京家政大学博物館	【文化財を守れ！】 博物館の収蔵品を「虫・カビ」被害から守るため、薬剤に頼りすぎず、清掃や温湿度管理によって予防しようという「IPM(総合的有害生物管理)」が提唱されています。当館のIPMの取り組みを紹介します。
11	保健センター 学生相談室	【保健センター学生相談室の活動報告】 —学内連携における守秘義務の検討—
12	保健センター 保健室	①【問診票から考える学生の健康と栄養】 学年別の問診票から健康、栄養、普段の生活に不安を抱く学生に1人ぐらしの健康サポートBook を利用し、健康、栄養相談を実施した結果と考察。 ②【麻疹予防対策の取り組みと今後の課題について】 全学生、教職員に対し麻疹抗体検査を実施し、抗体低値者に予防接種をうながした。罹患やワクチン接種がなければ、経年的に低下することがわかった。今後も高い意識を持って麻疹予防対策に取り組む必要がある。
13	生涯学習センター	2013 年度 活動報告、及び公開講座の紹介展示。
14	臨床相談センター	【子どもの発達を援助する母親養成講座】 この講座では、母親に子どもと一緒に来所してもらい、母親はセラピストによる子育てアドバイスを受け、子どもは大学院生によるプレイセラピーを受けた。毎回出席した親子の 2 ケースについて検討する。
15	ヒューマンライフ支援センター	ヒューマンライフ支援センターの活動は、学部・学科・科を越えて、学生の発想した企画を実行できるよう支援することです。 また、官・学・産の連携事業に大学が培って来た知的財産を活用し参加支援することです。活動成果を展示及び配布物で参加します。
16	地域連携協力推進センター	【地域連携協力推進センター 平成24年・25年度事業報告】 平成 24 年度・25 年度に行った公開講座や子ども大学さやま・いるま等に関する事業報告をします。

【 附属 中学校・高等学校 幼稚園 ナースリールーム 】

部 署		参 加 内 容
1	附属中学校高等学校	附属女子中学校 高等学校 将来計画検討委員会の取り組み
2	附属高等学校	【授業改革から学校改革へ】 附属の中学・高等学校で平成 25 年度 4 月からは始まった授業改革の方向性と具体的進展について報告をします。
3	〔中・高〕 国際化委員会	【2013 年度 海外語学研修についての報告】 1.第 4 回 カナダホームステイプログラム 7/28～8/14 キッチンにて 参加者:40 名 2.第 1 回 オーストラリア体験入学 8/3～8/16 パースにて 参加者:19 名
4	〔高〕 ドリルチーム部	【平成 24、25 年度 ドリルチーム部活動報告】 DVD の放映があります。
5	〔中〕 中学校1年生	中学 1 年生の総合学習では『家政を知る・自分を知る』をテーマに各自が課題を決め、研究に取り組みました。そこでまとめたことを参考に[kasei カルタ]も作成。文もイラストも自分達で考えたオリジナルカルタです。
6	〔中〕ビオトープ委員会 理科部	【中学ビオトープ委員会・中学理科部の取り組み】 生徒による ビオトープの整備活動、学園内の生き物調査、都市河川の水質調査などの報告。
7	〔中〕 給食施設	中学校スクールランチの新メニューと今年度実施した食育活動を紹介しします。又、中学校入試広報活動の一環であるスクールランチ試食会の様子も紹介しします。
8	〔中・高〕 保健委員会	【生徒保健委員会活動の紹介】 中学では毎月、高校では学期に 1 回おたよりを発行しています。季節毎に大切な保健室発信の内容を生徒から生徒へ伝えています。
9	附属みどりヶ丘幼稚園	【私の保育室「つながる！ひろがる！ふかまる！子どもたちの世界」】 ～ひとり一人の夢や願いが実現できる保育環境創りへ～ 日々の保育の中で大切にしていること、大切にしている思いを、保育の一場面を例に紹介します。
10	ナースリールーム	【1、2歳児の自発的な「学び」について一遊びの中の「学び」―1・2】 ナースリールームでの保育実践における、日々の遊びの中での関わり合いを通しての子どもたちの学びと、その関わる保育者の役割についての考察。

※ ポスター展示のほか、映像での発表も行っています。

放映時間・内容については、ポスターセッション会場の案内掲示をご覧ください。



平成25年度 リサーチウィークス 研究発表会及び活動報告会等予定表

月日	曜日	リサーチウィークス関連 研究発表会等
1月20日	月	
1月21日	火	
1月22日	水	服飾美術学科 卒業制作展示発表会 〈多目的ホール〉1/22～24
1月23日	木	
1月24日	金	
1月25日	土	
1月26日	日	
1月27日	月	
1月28日	火	
1月29日	水	
1月30日	木	
1月31日	金	服飾美術学科 卒業研究発表会 〈2-303 第2階段講義室〉
2月1日	土	児童学科 卒業研究発表会 久富先生 〈120-4A〉13:00～15:00
2月2日	日	児童学科・保育科 卒業研究発表会 戸田先生、榎本先生 〈120-5F 造形教育実習室〉 10:30～17:00 細田先生 〈120-511 共同利用室〉14:30～17:00 服飾美術学科 ファッションショー
2月3日	月	保育科 卒業研究発表会 平野先生 〈120-4A 実習室〉13:00～18:00
2月4日	火	
2月5日	水	環境教育学科 卒業研究発表会 〈三木ホール〉 13:00～17:00
2月6日	木	児童学科 卒業研究発表会 14:30～16:30 大澤先生、増田先生〈4号館 403 児童系実験室〉
2月7日	金	栄養学科 卒業論文発表会〈152A 講義室〉10:00～
2月8日	土	
2月9日	日	児童学科 卒業研究発表会 花輪先生 〈リズム遊戯室〉10:00～14:30
2月10日	月	児童学科 卒業研究発表会 13:10～16:00 佐藤隆弘先生 〈120-5F 共同利用室〉
2月11日	火	
2月12日	水	ポスターセッション 〈多目的ホール〉2/12～28
2月13日	木	大学院修士論文発表会(人文系) 臨床心理学専攻 〈162C〉9:00～11:50
2月14日	金	造形表現学科 卒業制作展 2/14～18 大学院修士論文発表会(人文系) 英語・英語教育研究専攻 〈162B〉11:00～12:00
2月15日	土	心理カウンセリング学科 三浦ゼミ卒論・修論発表会 〈142A〉12:40～
2月16日	日	
2月17日	月	大学院修士論文発表会(家政系) 児童学児童教育学専攻 〈162D〉10:00～10:40 健康栄養学専攻 〈162B〉9:00～11:50 造形学専攻 〈162C〉10:00～11:40
2月18日	火	
2月19日	水	大学院博士論文発表会 人間生活学専攻 〈162B〉9:00～11:40
2月20日	木	オープニングレクチャー 13:00～
2月21日	金	
2月22日	土	服飾美術学科 教員研究発表会 〈120-3D〉

月日	曜日	リサーチウィークス関連 研究発表会等
2月23日	日	
2月24日	月	
2月25日	火	
2月26日	水	リサーチウィークスFDフォーラム 13:00～
2月27日	木	
2月28日	金	教員研究成果発表会 〈120-2B, 2C〉10:00～
3月1日	土	
3月2日	日	
3月3日	月	
3月4日	火	
3月5日	水	栄養学科・栄養科、科内研究発表会 〈120-3A 講義室〉13:00～
3月6日	木	
3月7日	金	
3月8日	土	心理カウンセリング学科 相馬ゼミ研究発表会 〈171A〉14:00～
3月9日	日	
3月10日	月	
3月11日	火	
3月12日	水	
3月13日	木	
3月14日	金	
3月15日	土	
3月16日	日	
3月17日	月	
3月18日	火	
3月19日	水	
3月20日	木	
3月21日	金	
3月22日	土	
3月23日	日	
3月24日	月	
3月25日	火	造形表現学科 助教研究成果発表 3/25～31
3月26日	水	
3月27日	木	
3月28日	金	
3月29日	土	
3月30日	日	
3月31日	月	

